

会派代表質問

私たち議員の仕事は、市民の為に一生懸命に尽くしていく事なのだ！

新政ネット

石渡 登志男 議員



前回の第1回定例会で私は次のような質問をした。

「第2保育所は津波浸水エリア内。海岸から1.3kmで白里小まで避難するのに約1kmもある。小さな子ども達を避難させるのはかなり困難。あそこにある事自体がそもそも違っているのか。そこで、白里幼稚園は園児がほとんど減っている。よって新たにこの場所に認定こども園として機能を持たせたらどうか。教室数その他の問題で移転が困難なら、建替えも視野に入れてもよいではないか。」

それに対し市長は、「老朽化の程度や給食設備の有無など、施設設備の状況から比較しますとその部分は第2保育所の方が優れています。第2保育所は津波浸水区域内にあるという指摘というふうに思いますが、ならばもつと以前から第2保育所は津波浸水エリア以外に移転せよと、高齢者が集うコスモス荘などは直ちに移転せよと主張すべきだと思います。私には為になるビジョンのようにしか聴こえませんでした。」と答弁しました。

何が何だか、私にはよくわからない。為になるビジョンというのは下心をもって行う事という意味である。市長の答弁を聞き、市民の方は何を思うのだろうか。私はこの答弁には驚いたし、また悲しくなった。市民の方々は、これでは逆ギレだと言われても仕方がないと、そんな言葉を言われていた。他の議員からも市長答弁に対する批判もあった。この年齢になると、すぐに怒ったり、そう簡単に物事に動じなくなる。私は常に冷静沈着を心がけている。

ただ、誤解のないようにお願いしたいが、私は突然第2保育所の危険性を指摘したのではない。1期目の最初の頃より第1、第2保育所長宛てに東日本大震災で犠牲となったあ

る幼稚園の状況詳細の用紙をお渡ししたことがあった。その時の私の真意だが、この場所は大変危険で、それを認識していただき、何かあった時には迅速なる行動をお願いしたいと思っただけだ。また、海の目の前にある第1保育所として施設の移転がなかなかままならない状況において、どうして2つの移転が市にできるのか？それを思い、第1保育所の移転を先に訴え、目途が立った段階で危険性が高い第2保育所の移転問題に踏み切りたいと思っていた。そして昨年、ついに第1保育所の移転場所が現実的となった。それをまさかあのような答弁にて言われるとは思ってもよらなかった。自分は何を言われようが、少しでも第2保育所の危険性を市にご理解していただきたいと思っていた。ただ私は訳のわからない下心を持ってこの質問を行って

いるわけではない。あの小さな子どもたちや先生方の命を何とか守っていただきたいというその一心だけだ。それ以外にない。

市は私のようならうるさい議員を好まないであろう。でも、もし今、津波に襲われたら子どもや先生方が一瞬にして命を失う怖れもあるのだ。各議員の質問には、市長はあげつらい、逆ギレすることなく、丁寧に真摯に答えることが、行政トップの市民に対する責任と品格であり、それにより市はより一層、住民の信頼を得る事ができるのではないのか。それを言わせていただき、これからは

発言席から行いたい。

問 今回は避難所生活の食料や飲料水等についての質問。熊本地震、ある中学校での避難所生活において、1日で食べたものはおにぎり1個だけ、毛布もなかった。まだこれでもましなほうで、1日水を飲んだだけという方もおられた。近隣の飲食店が食料を提供してくださり、焼きそばが可能となったが、1,500人以上の方々が列をつくった。公の避難所でもそれほど食料難に陥った。まして車内泊する方々は後回し。今までの大地震ではいつもこんな状況で、何ら教訓が生かされていない。災害時の避難所生活において、市民の皆様方がお困りにならないよう、しっかりと対応すべきだ。ではどう市は対応していくのか。

答 災害発生から一定期間においては、市外からの支援が届かない事が想定されます。そこで食料や飲料水など3日分程度を防災倉庫等へ備蓄をしています。市では今後、被災自治体等の例を参考に、早期に各種支援の受け入れに係る体制の構築に努めてまいります。

これ以外に、本市人口増加策や大網中学校の内容並びに子どもの貧困対策等についても行った。

関連質問

堀本孝雄 議員



問 津波避難施設は、今後どのように整備していくのか。

答 4か所の高台整備計画のうち、これまで2カ所については、整備が完了したところです。残り2カ所については、先の2カ所のタワー、築山のメリット・デメリット等を整理し、地元住民の皆様と協議を重ねていきたい。

整備計画は、発生確率30年で70%と推定される延宝房総沖地震を対象とした施設整備であると認識してい

る。いつ起こるのかわからない災害に対し、速やかに今後の津波避難設備の方向性を示していただきたい。問 続きまして、白里海岸の浸食対策の進捗状況についてお伺いいたします。

答 これ迄の浸食対策検討会議において、本市からは白里海岸の浸食対策の計画案については、養浜の拡大とコンクリート構造物による整備を極力控えた計画を要望してきたところです。加えて今回第4回の会議では市長から漁業関係者との調整が大切と思うのでしっかりと進めて欲しいと要望したところであります。

その会議の基本方針である砂浜幅40mを確保するという大前提からすればもつと緊迫感を持って訴えていただきたい。白里海岸は県下一の海水浴場とされています。中里、一松海岸のようになったら海水浴場どころではありません。防災上も大変な問題も含んでいるのです。しっかりとした対応をお願いいたします。

問 大網小学校にもあるように、大網中学校にもスクールバスの導入は考えられませんか。季美の森団地からのあの坂道、永田地区方面からの市街地からの自転車通学は非常に大変だし、危険だと、バス要望が父兄からあるが、どうか。

答 大網中学校へのスクールバスの導入に対しては、多額の経費、維持費、さらに公共交通機関との競争問題を考えると大変難しい課題であると考えています。

問 はまバスの運行形態を変えて白里小学校の通学にも使えないか。

答 はまバスの運行計画等を見直す場合には、通学目的での利用を含めて地域公共交通活性化協議会においての検討課題と考えております。

個人質問

本市の観光振興の取り組みについて

秋葉 好美 議員



問 本市の観光振興について、1年を通して観光の取り組みを伺います。

答 テレビやラジオのほか県内外で開催される各種イベント等において主要な観光スポットや特産品などの魅力を積極的にPRしています。駅前前にオープンしたマリンの土産店とも連携し、市の特産品やマリングッズを販売しています。最近では、千葉県PRイベントとして5月25日にサンリオピューロランドで開催されましたキティと千葉県「ぎゅっ」とちば」において市のマスコットマリんとチーバくんをはじめ千葉県内のほかのマスコットキャラクターと出演し、来場者に市のPRを行ってきま

した。

このように、さまざまな機会において創意工夫を凝らしながら県や各種関係団体と連携し、本市の知名度の向上と魅力発信に努めております。

問 次に白里海岸の浸食対策の進捗状況について伺います。

答 学識経験者や漁業関係者、本市を含む沿岸9市町村の首長などで構成する九十九里浜浸食対策会議を設置し、平成29年から31年まで4回の検討会議が開催されました。その結果、当面は養浜による浸食対策を行っていくことと、合わせて汀線の変化を観測しながら施設整備の必要が生じた場合には、その有効性を検証し、ヘッドランドなどの施設整備を進める計画案が示されています。市としても、県に速やかに浸食対策計画を取りまとめ頂き、一日も早く浸食対策が実施されるよう要望してまいります。

問 次にフリーWi-Fiの搭載型自動販売機について、昨年6月議会です質問していますが、その後の進捗状況を伺います。

答 Wi-Fi機能付自動販売機の設置状況につきましては、設置コストの軽減が期待できることから庁内関係課と協議、検討してまいりました。その結果、本年4月から避難場所である大網白里アリーナ、浄化センター、農村ふれあいセンター、運動広場、市営球場に計5台Wi-Fi付自動販売機を設置致しました。

問 このフリーWi-Fi搭載型自動販売機を、市役所内、中央公民館、保険文化センター等に、設置の可否はないのか伺います。

答 災害発生時にネット接続環境を提供する観点から引き続き検討してまいります。